

環境モニタリングの結果及び令和元年度上半期の状況一覧表

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準値超過地点数				令和元年度上半期の状況	
					全期間(～平成30年度)	平成30年度下半期	令和元年度上半期	全期間(～平成30年度)	平成30年度下半期	令和元年度上半期	基準値等		単位
2.1生活環境 保全上の支障の 有無の把握	大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	大気環境基準	2地点	超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	μg/m ³ (ng/m ³ :水銀) ppm (mg/m ³ :メタン)	環境基準が定められている4物質、指針値を定めている6物質全てで基準値等に適合していた。
		塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	指針値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎		
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎		
	硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	超過なし	超過なし	0.005未満～1.105	0.005未満	0.005未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
放流水水質調査	総水銀(水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物)、鉛及びその化合物、有機燐化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、ほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)、フェノール含有量、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類	放流水基準	1地点	大腸菌群数	超過なし	超過なし	0.1～16300	10～33	350～2300	3000以下	個/cm ³	放流水の水質は、全ての項目で放流水基準に適合していた。 過去に放流水基準を超過したことのある大腸菌群数についても、基準に適合していた。	
河川水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量、大腸菌群数	環境基準 上下流の比較	2地点	BOD、溶存酸素量 ※上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	BOD、SS ※上下流で同様の値を示す	-	-	-	対象毎	対象毎	上流側と下流側で同程度の値を示し、処分場からの放流水による周辺環境への影響は概ねないものと考えられる。	

2.2浸透水等の 地下水の拡散 又はその おそれの把握	浸透水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.039(8地点)	0.002未満～0.004	0.002未満～0.003	0.01以下	mg/L	1,4-ジオキサン、BODが基準を超過している地点があり、変動はみられるものの、横ばい傾向である。砒素においては、概ね横ばい傾向を示した。H16-13の8月の調査でこれまでの変動の範囲内で高い値を示した。
					砒素	砒素	砒素	0.001未満～0.069(3地点)	0.001未満～0.019(2地点)	0.001未満～0.030(1地点)	0.01以下		
					トリクロロエチレン	超過なし	超過なし	0.002未満～0.019(1地点)	-	0.002未満	0.01以下		
					ベンゼン	超過なし	超過なし	0.001未満～0.018(4地点)	0.001未満～0.008	0.001未満～0.009	0.01以下		
					1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	0.005未満～0.31(5地点)	0.005未満～0.19(2地点)	0.005未満～0.12(1地点)	0.05以下		
					塩化ビニルモノマー	超過なし	超過なし	0.0002未満～0.012(1地点)	-	0.0002未満	0.002以下		
	BOD	BOD	BOD	1.2～160(13地点)	15～53(10地点)	6.9～41(6地点)	20以下						
	ほう素	ほう素	ほう素	0.02～31(11地点)	0.05～14(7地点)	0.05～10(7地点)	1以下	mg/L	ほう素、ふっ素が基準を超過する地点があり、変動はみられるものの、横ばいもしくは緩やかな低下傾向。				
	ふっ素	ふっ素	ふっ素	0.08未満～5.6(11地点)	0.10～2.7(9地点)	0.11～2.4(7地点)	0.8以下						
	ダイオキシン類	ダイオキシン類	ダイオキシン類	環境基準	超過なし	超過なし	0.037～110(7地点)	0.041～0.98	0.065～0.71	1以下	pg-TEQ/L	基準に適合していた。	
地下水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	地下水等 検査項目基準	10地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.083(6地点)	0.002未満～0.003	0.002未満～0.002	0.01以下	mg/L	基準に適合していた。	
				砒素	超過なし	超過なし	0.001未満～0.068(1地点)	0.001未満～0.008	0.001未満～0.008	0.01以下			
				BOD	超過なし	超過なし	0.5未満～27(2地点)	0.7～17	0.5未満～19	20以下			
	ほう素	ほう素	ほう素	環境基準	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	mg/L	基準に適合していた。	
ダイオキシン類	ダイオキシン類	ダイオキシン類	環境基準	超過なし	超過なし	0.062～2.9(3地点)	0.070～1.1(1地点)	0.076～0.59	1以下	pg-TEQ/L	基準に適合していた。		

調査目的	調査名	調査項目	基準	調査地点数	令和元年度上半期の状況
2.3処分場の状況 の把握	発生ガス等調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	17地点	硫化水素・メタン:主に横ばい又は減少傾向。メタン濃度に変動がある地点もあるが、これまでの変動の範囲内。発生ガス量:変動はあるが全地点で横ばいもしくは低下傾向。その他:顕著な変化なし
		浸透水(電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH)	-	13地点	硫酸イオン:主に横ばい傾向。他の地点と比べNo.5b、H26-3a、7-4は高い値を示した。塩化物イオン:主に低下又は横ばい傾向。
	下流地下水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH	-	8地点	硫酸イオン、塩化物イオン:横ばい又は低下傾向。
	放流水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、pH	-	1地点	顕著な変化なし
	地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帯水域の温度	-	22地点	緩やかな低下傾向。埋立区域外との差も小さくなってきている。
	地下水水位調査	地下水水位、降雨量	-	22地点	変動の幅に顕著な変化なし
	多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	定量下限値未満で変化なし
	地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	定量下限値未満で変化なし
バイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	2地点	すべての測定時期でAOD値が400%以上であり、上下流の差は認められない。	

凡例

- 地下水等検査項目基準を超過したもの
- 環境基準を超過したもの
- 目標値を超過したもの
- 赤字表記 基準・目標値等を超過する値
- (○地点) 基準等を超過した地点数

※ 全期間とは、測定開始から令和元年度上半期までの期間を指す。